

第2章

富谷市の目指す将来像

第2章 富谷市の目指す将来像

「富谷市総合計画」が目指す、まちづくりの将来像「住みたくなるまち日本一 ～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～」の実現に向けては、「仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」、「富谷市国土利用計画」、「富谷市高齢者保健福祉計画」等の関連計画と連携をとりつつ、都市活動を支える基盤である公共交通の維持・強化により、人々の様々な活動に対応できるようにすることで、“住みたいと感じることのできる魅力のあるまちへ”と成長することが重要となります。

このため、今後の交通施策を進めるにあたっては、行政・市民・交通事業者などが共通の目標に向かって施策を進めていくことができるよう、方向性を共有することのできる目標・方針を設定し、施策を推進します。

そして、今後の富谷市の土地利用の誘導と一体となった交通網の整備を進め、市機能の集約・高度利用の誘導を図っていきます。

2-1 基本目標

「住みたくなるまち日本一」にふさわしい 交通環境の実現

過度の自動車依存からの脱却、高齢化社会への対応、地域間交流・連携の強化といった富谷市の交通をとりまく課題に対応しつつ、富谷で暮らす人・働く人・訪れる人の誰もが、利便性・快適性・安全性を感じることできるまちをつくるため、今後の公共交通施策の基本目標を『「住みたくなるまち日本一」にふさわしい交通環境の実現』と設定し、関連施策に取り組みます。

2-2 交通の将来像

将来像 1 さまざまな選択肢のある環境負荷の少ない交通環境の実現

(マイカー依存からの脱却)

さまざまな移動の場面で、公共交通・自転車・徒歩などマイカー以外の多様な交通手段が選択できる交通環境を実現し、渋滞・事故・環境悪化などのマイカー交通に起因する問題が少ない「安全で環境への負荷の小さいまち」を目指します。

将来像 2 あらゆる世代の人がいきいきと活動できる交通環境の実現

(高齢化社会への対応)

高齢者を含め、富谷で暮らす人・働く人・訪れる人の誰もが、不便・不快と感ずることなく移動ができる交通環境を整えることにより、「あらゆる世代の人がいきいきと活動できるまち」を目指します。

将来像 3 都市部、郊外部にすばやくアクセスできる交通環境の実現

(地域間交流・連携の強化)

経済・教育・文化・娯楽等、高度で多様な都市機能が集積する仙台市や、豊かな自然に恵まれるとともに大規模な従業地という一面もあわせもつ大和町、大衡村など、多様な魅力を持つ周辺都市へのアクセスの利便性を高めることにより、様々なライフスタイルの人が生活の拠点とすることができる「魅力のあるまち」を目指します。

2-3 将来の都市構造

前述の「2-2 交通の将来像」の実現に向けて、市域における人々の活動の中心となる拠点として「都市拠点」、「地域拠点」、「産業拠点」を位置づけるとともに、これらの拠点を結ぶことにより、本市の骨格を形成する軸として「都市主軸」、「都市副軸」を設定し、これらの拠点や軸の機能を高めるための施策を展開します。

拠点

○都市拠点:大清水地区、成田地区、明石台地区

高度な機能を持つ商業施設や医療施設の立地や、（仮称）富谷市民図書館の設置予定など、市全域や周辺都市からも人々が集う富谷市の中心となる拠点とします。

○地域拠点:旧市街地

本市の歴史的景観が残るしんまち地区、市役所や中央公民館等が立地しており、住民や観光客等の人々が集う行政・文化の中心となる地域の拠点とします。

○産業拠点:成田北地区、高屋敷地区

工業・流通業務機能の誘致を促進するとともに、高速交通網の高い利便性を生かして計画的に整備を推進し、多くの就業者が集まる拠点とします。

軸

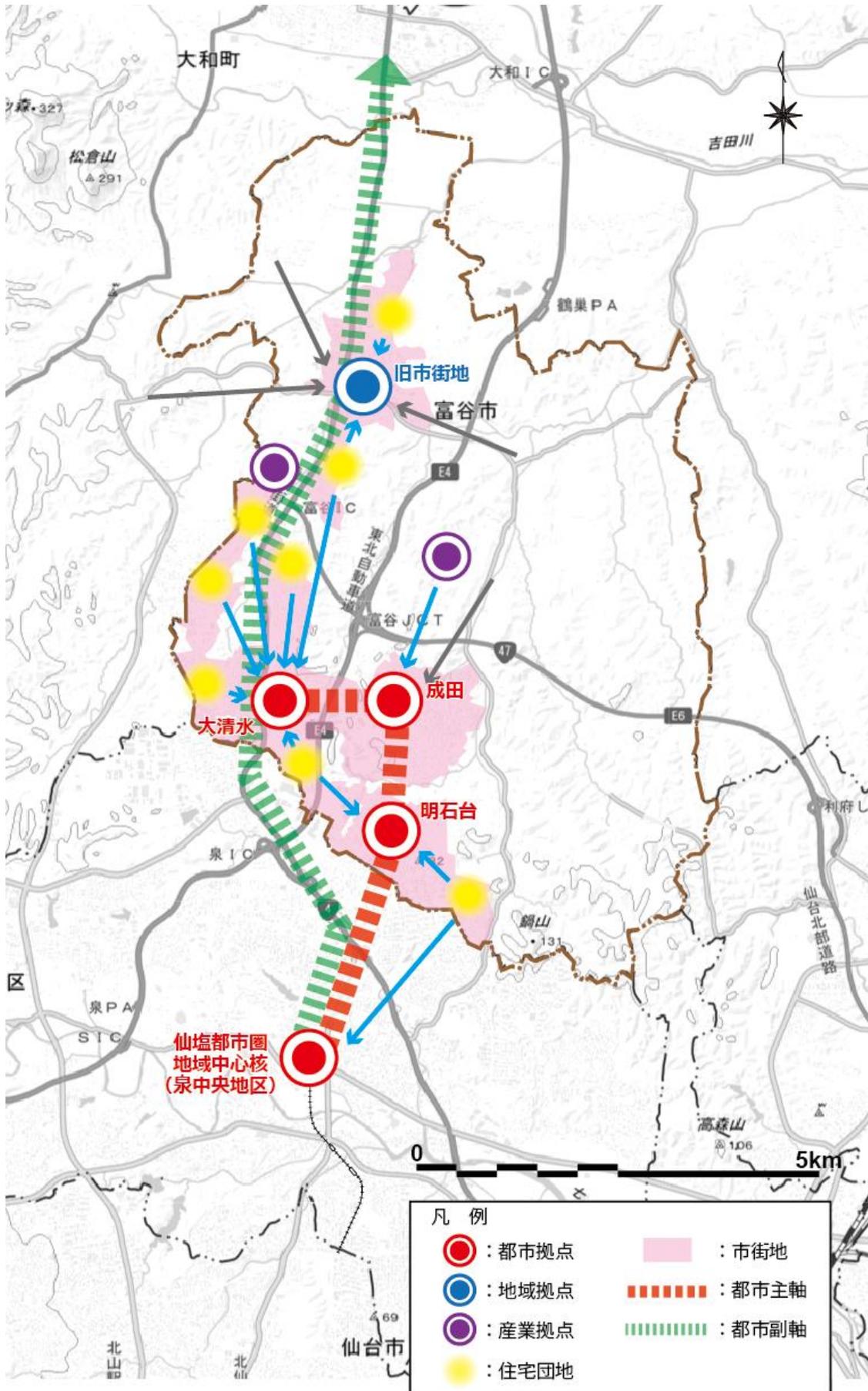
○都市主軸:(泉中央駅) ⇄ 明石台地区 ⇄ 成田地区 ⇄ 大清水地区

仙塩都市圏の地域中心核である泉中央地区と明石台地区、成田地区、大清水地区の「都市拠点」とを連絡する、富谷市の都市の骨格となる軸とします。なお、周辺都市との間の広域的な交流・連携を支えるとともに、過度なマイカー交通への依存からの脱却に向け公共交通の背骨を形成する軸とします。

○都市副軸:(泉中央駅) ⇄ 富ヶ丘 ⇄ 大清水地区、 大清水地区 ⇄ 旧市街地 ⇄ (大和町) ⇄ (大衡村)

面的に市街地が広がる市南部において、都市主軸から離れた区域の骨格として都市主軸を補完する軸及び、都市主軸と富谷市北部地域や地域外の大和町、大衡村を連絡する骨格となる軸とします。

<将来都市構造>



2-4 評価指標

目標・将来像の達成状況を評価するための指標及び数値目標は、次の3項目を基本案とし設定します。なお、数値目標の達成状況の確認は5年おきに実施することとし、評価指標及びその数値目標は、社会経済情勢の変化や関連計画の見直し等を踏まえて、適宜見直しを行うものとします。【具体的な評価指標や数値目標は、次年度、基本計画策定にあわせて見直しを図る】

＜「公共交通ランドデザイン」の評価指標と数値目標案＞

将来像1. さまざまな選択肢のある交通環境の実現

現況

公共交通分担率
6% (平成14年)

※第4回仙台都市圏
パーソントリップ調査

将来

10%
(現状の名取市・多賀城市と
同程度)

将来像2. あらゆる世代の人がいきいきと活動できる

交通環境の実現

現況

高齢者(75歳以上)の
1日あたり平均移動回数
0.7回 (平成14年)

※第4回仙台都市圏
パーソントリップ調査

将来

2.0回
(現状の65～74歳と同程度)

将来像3. 都市部、郊外部にすばやくアクセスできる

交通環境の実現

現況

大清水地区周辺から
公共交通利用での
仙台駅までの所要時間
約50分

将来

約30分程度
(現状の6割程度)

注) 上記1、2の値は第4回PT調査データに基づく値。今後、最新のデータに基づき見直しを図る。
上記3の値は今後、近隣市町村の計画との整合性を図る。

